

北図書館だより

むらさきのつうしん

第2号

新年がはじまって1ヶ月。みなさんいかがお過ごしですか？
本年も北図書館をどうぞよろしく願いいたします(^-^)/
この冬は暖冬のようなのですが、それでも寒い日はあるもの。冬だからこそ暖かい部屋でゆっくり読書なんていかがでしょうか？
チャレンジ体験で来館してくれた中学生のみなさんと北図書館職員のオススメ本です。



『ブレイブストーリー』

宮部みゆき／著（角川書店）



この話はこれまでの平穏な毎日を取り戻す、運命を変えるために主人公の巨が幻界で冒険をする話です。冒険していくなかで巨の、たくさんの仲間を支えられて失敗しながらもチャレンジし、成長していく姿がとても印象的です。ぜひ読んでみてください。

『レインツリーの国』

有川浩／著（新潮社）



映画になった話題本2冊！

自分の痛みと他人の痛みについて考えさせられる本です。同情することはできても、それは本当の意味で相手を理解していることにはならない、ということをおこの本を読んで感じました。

『こども電車』

岡田淳／作・画 （金の星社）



私もちいさいとき、こども電車に乗っていたのかなと、ふと思いました。子どもなら誰でも乗れるはずだから、きっと一度は乗ったんだろうなと思います。子どもの時代は本当に貴重なんだなと改めて感じました。

『オリエント急行とパンドラの匣』^{ケース}

はやみねかおる／作 （講談社）



このお話は名探偵・怪盗・海賊・探偵卿・犯罪組織などが登場し、パンドラの匣をめぐる事件がおきる話です。最後にみんなが集まって謎解きをするところが見どころです。

『人形は笑わない』

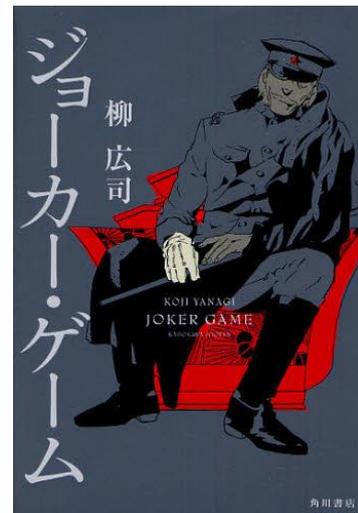
はやみねかおる／作 （講談社）



名探偵・夢水清志郎は雑誌の謎解き紀行の取材で人形の塔が建っている毬音村へ。レーチたち文芸部も映画スタッフたちとともにその村へ向かったが、実は呪われた村だった…。少し変な夢水名(迷)探偵がおもしろいお話です。

『ジョーカー・ゲーム』

柳広司／著 （角川書店）



シリーズあります

結城中佐が指揮する通称“D機関”のスパイたち。見えない存在の彼らは決して死を選択せず、殺しもしない。頭脳とタフな身ひとつで活躍する姿がとてまかっこいいんですよね！結城中佐がまたミステリアスで気になります(映画版では伊勢谷友介でした)

『悲嘆の門（上・下）』

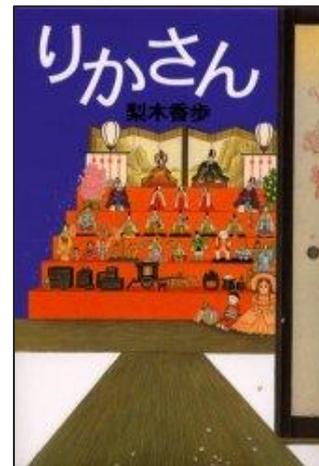
宮部みゆき／著 （毎日新聞出版）



大学生・孝太郎と老刑事・都筑が
戦慄の殺人事件の謎を追うお話。
動くガーゴイル像が印象的！
宮部ワールドにはまります！

『りかさん』

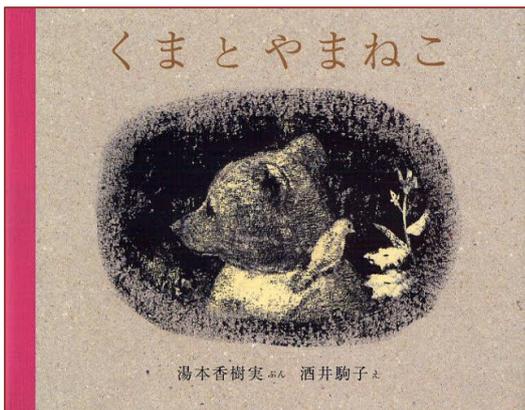
梨木香歩／著 （偕成社）



おばあちゃんから贈られたのは古く
て黒い髪の市松人形。こんなはずじゃ
なかったのにとがっかりしたようこ
でしたが、「りかさん」にはふしぎな
能力があったのです。

『くまとやまねこ』

湯本香樹実／ぶん 酒井駒子／え
（河出書房新社）



大切な親友のこたりを喪失した
かなしみを乗り越えるくまの物語。

『科学の扉をノックする』

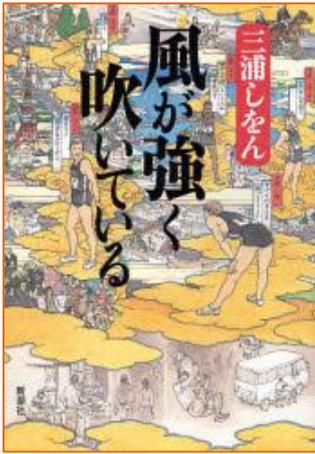
小川洋子／著 （集英社）



宇宙・鉱物・粘菌…むずかしく思える
科学の世界が、日常生活の中で身近に
感じられる1冊です。

『風が強く吹いている』

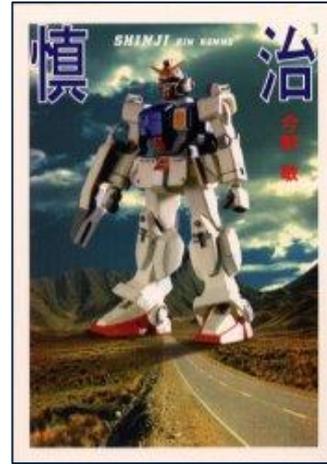
三浦しをん／著 （河出書房新社）



お正月の箱根駅伝は見ましたか？
（青学強かったですね！）毎年やっているけれど、箱根駅伝にはどうやったら出られるのでしょうか？走るって何なのか？速いってどういうことなのか？今年箱根を見た人にも見なかった人にもおすすめですよ！（私が一番好きな台詞は「黒人は足が速いというのは偏見です」です）

『慎治』

今野敏／著 （双葉社）



ほぼジャケ買いで手に取った本です（文庫版は装丁が変わって残念！）慎治は中学生。いじめっ子に万引きを強制されて失敗。その現場に居合わせた担任教師は、面倒くさいことになったなあと思いつつ…。ガンプラとサバゲーは慎治を救う!? 痛快なラストが待っていますよ。



京都市北図書館

〒603-8214

京都市北区紫野雲林院町 44-1

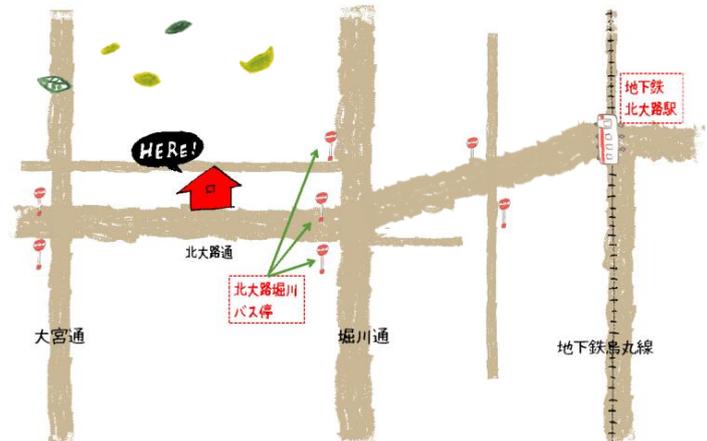
TEL 075-492-8810

開館時間 平日 9:30～19:30

土日祝 9:30～17:00

休館日 毎週火曜日（祝日の場合は翌日）

HP <http://www2.kyotocitylib.jp/>



★京都市図書館で本を借りるときは図書館カードが必要です。

（持っていない方は図書館でカードを作ることができます。
住所の確認が必要なので、作るときは生徒手帳を持参してください）

